

## 早稲田大学 文化構想学部 世界史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	2011年以降すっかり定着した感のある古代から順次時代を降って現代にいたる大問配列は今年も踏襲された(2007年～2010年は「人の移動」(2007)・「都市」(2008)・「戦争」(2009)・「思想・宗教」(2010)と全体を通じたテーマ設定がされていた)。第一・第二文学部の再編以来、基礎的出題が中心だったがその後は徐々に難化し、2017年は一転して大幅に易化し、本年度はやや難化した。小問の総数は42問で、2017年40問から2問増加した。それ以前は、2016年43問、2015年44問、2014年43問、2013年44問、2012年、43問と1問のプラス・マイナスを繰り返している。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	世界遺産に指定された遺跡	<p>昨年は「古代社会における神と権力」という切り口で古代史を扱ったが、導入は違っても趣旨は今年も同様。設問1の「ユネスコ」は基礎項目でかつ一般教養レベル。設問2の「ラスコー」も基本中の基本。洞窟絵画はラスコーとアルタミラ以外が問われると極端に難しくなる。設問3の解答「ジュセル」はいわゆるジュセル王の階段ピラミッドと呼ばれるもので、三大ピラミッドに先行する遺跡。ただこの設問では消去法で簡単に正解できる。設問4は「インカ道」を問う問題。語群中のアステカはメキシコなので論外として、チムーとティワナクは受験生としては未知の項目だったかもしれない。どちらもプレインカ時代の存在。設問5はやや細かい。イのアンコール＝トム(首都)を完成させたのはジャヤヴァルマン2世が正しい。ウのアンコールに攻め込んだのはタイが正しい。文中のドヴァーラヴァティー(6～11世紀)はアンコール朝に滅ぼされた側である。エのバイヨン寺院はアンコール＝トム内部にある寺院。</p>	やや難
〔Ⅱ〕	古代ローマの著作家	<p>昨年の大問Ⅱのテーマ「古代・中世初期のイタリア半島」と類似のテーマである。設問1は元老院についての基礎的問題。アのスラは「民衆派」ではなく「閥族派」の指導者。ウは「元老院」ではなく「民会」。エの元老院議員の任期は「4年」ではなく「終身」が正しい。設問2のプリニウスの『博物誌』はストラボンの『地理誌』と連れだって出題される受験世界史の定番。プリニウスがベスビオス火山の噴火に際してナポリ湾上の艦艇からポンペイ市に上陸して死んだ話も広く知られているレベルである。設問3は「79年」という年代から五賢帝の二人(トラヤヌス・ハドリアヌス)は除外。ネロ(位54～68)はキリスト教徒迫害の年代(64年)を想起して除外しティトゥス帝(位79～81)を選ぶ。ローマもの一般書でこの時代に造詣が深い場合は別として普通の受験生は消去法に頼るしかない。設問5は正解のイの一本釣りも可能。アは「ギリシア語」ではなく「ラテン語」が正しい。ウの『年代記』が対象とするのは「五賢帝時代」(96～180)ではなく「前9年」。エの「アガメムノン」はギリシアの三大悲劇作家の一人アイスキュロスの代表作である。</p>	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅲ〕	イスラーム世界の展開とシーア派	<p>           昨年は「古代社会における神と権力」という切り口で古代史を扱            昨年に引き続きイスラーム世界のテーマ史。昨年は「前近代イスラ            ーム世界における人・もの・かねの移動」だったが今年は「シーア            派」だった。設問1は正解ウの一本釣りも可能。アのアブー＝バク            ルはムハンマドの「従弟(いとこ)」ではなく「義父」。従弟にあたる            のはアリーである。イのシリアとエジプトは「ササン朝」ではなく            「ビザンツ帝国」から奪った。エのアリーを殺害したのは「ムアーウ            イヤ」ではなく「ハワーリジュ派」が正しい。設問2の正解アは内容            そのものは一般的ではないが消去法で十分対処可能。イのイラン            地方でシーア派が支配的となったのはサファヴィー朝(1501～            1736)が正しい。ウは「イラン立憲革命(1905～11)」ではなく「イラン            革命(1979)。エは明白な誤り。おおよそ10%というのが現況であ            る。設問3のアのバグダード造営は第2代マームーンの事績。バ            グダードについてはティグリス河畔という位置関係と「マディー            ナ＝アッサラーム(平安の都)」という正式名称もおさえておきた            い。イのタラス河畔の戦い(751)で破ったのは「隋」ではなく「唐」。            ウのバグダード征服は「チンギス＝ハン」ではなく「フラグ」。設問            4は「946年にバグダードを占領した」を「ブワイフ朝」と特定でき            ればあとは二択。ムラービト朝(1056～1147)はモロッコはモロッ            コでも11世紀の成立なのでイドリース朝(788～985)にたどりつけ            る。設問5のファーティマ朝建国地はチュニジア。設問6のウの            「初めてイクター制」導入はブワイフ朝(932～1062年)が正しい。         </p>	標準 (一部易)
〔Ⅳ〕	百年戦争・バラ戦争期の英仏	<p>           設問1のイでフランスの王位継承権を主張したのは「エドワード            3世」。設問2のエは「ヘンリ8世」ではなく「エドワード7世」。            設問3のア。ジャックリーの乱(1358)は「南フランス」ではなく            「北フランス」が正しい。やや細かいが、英仏戦争の主戦場が北部            であったことを想起できれば、戦災プラス重税という流が見えて            くる。設問4のワット＝タイラーは基本事項。         </p>	標準
〔Ⅴ〕	中国における塩の専売	<p>           旧文学部系の二学部(文化構想・文)の設問のリード文はこれまで            貧相なものが目立ってきたが、この塩の問題は一つのテーマを掘            り下げた良い文にまとまっている。設問1の「鉄」はやさしい。前            漢武帝の専売制度は基本中の基本。設問2は四択問題だが考えさ            せられて一筋縄ではいかない。均輸法と里甲制は論外なので事実            上は「募兵制」と「両税法」の二択である。教科書や参考書からの知            識でそのままあてはめるのは無理があるが、少し考えれば両税法            が財政悪化の原因というのはありえないことがわかる。府兵制は            均田農民に軍役を課す制度だったが、均田制の崩壊で維持できな            くなり、給与を支払って兵士を雇用する募兵制が導入された。そ            のために財政が圧迫されたのである。その財政を支えるために塩            の専売が行われた。専売は巨額の利益を銭(貨幣)の形で国家が直            接入手可能だったからである。設問3の正解はイ。元代、至元寶            通行鈔(1287年発行)などの紙幣の価値は専売品であった塩によ            って保証される一種の塩本位制であった。設問4の正解エは難し            い内容だが、消去法で対処が可能。山西商人と・州(新安)商人の            興隆時期の前後は最近の参考書・用語集では触れていない。         </p>	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
[V]		設問5の「ベンガル」は解答自体は簡単だが、塩の専売との関係は一般的ではない。塩の専売がイギリスによるインド植民地支配の重要なカギであったからこそ、ガンディーの塩の行進(1930)が民族運動として意義を持ったのである。	
[VI]	近現代の地中海世界	地中海のとくに島をテーマにした地図問題。ただ地図上でマイナーな場所や紛らわしい地域を問うているわけではない。設問1のスペイン継承戦争(1701～13(14))のユトレヒト条約(1713)とジブラルタルは基本的内容。設問2のコルシカ島の位置も迷わず正解したい。ナポレオンは島に縁のある人生を送った。生まれがコルシカ、1814年にはエルバ、1815年にはセントヘレナに配流された。地図上のyはエルバ島。設問3のシャンポリオンも基本事項。古代文字解読者としてはローリンソンと並ぶ大物である。設問4はこの問題の中で唯一のやや細かい出題。アとイが間違っているのはすぐわかる。ウのアウステルリッツの戦いは1805年12月、トラファルガー海戦は1805年10月で同年である。設問5のマルタ島は1989年の冷戦終結宣言の島としても重要。設問6は露土戦争(1874～75)に関するベルリン会議の講和条約ベルリン条約を選ぶ。	標準
[VII]	第一次世界大戦中のイギリスの中東政策	全問記述式で易しい。フサイン・マクマホン協定(往復書簡)(1915)→サイクス・ピコ協定(1916)→バルフォア宣言(1917)はセットにしておさえておく。地図上の位置関係も大切である。	易
[VIII]	西洋の美術	昨年の最後尾問題のテーマは「19世紀後半から20世紀にかけての前衛芸術」であった。昨年に比べると古代から現代にいたる幅広い内容になっている。設問1の「サモトラケのニケ」と同時代は「ミロのヴィーナス」。図版類で「ラオコーン」と三点セットになって示されていることが多い。設問2の「アール＝ヌーヴォー(仏語で「新しい芸術」の意)。昨年の「シュールレアリスム」や建築のル・コルビュジエと通ずるところがあるが、ある程度現代美術に予備知識がないと難しい。	標準 (一部難)

### [総合コメント]

近年、正誤判定の選択肢の中はかなり細かい内容が出るようになってきていたが、2017年は一転して大幅に易化し、今年はやや難化してレベルを戻した。このまま難化するか否かはわからないので、受験生としては本年度レベルからやや上を想定した方がいい。古代から現代までを順に問う形式に変化はなかったが、設問のリード文に大問Vの「塩の専売」のような重厚な雰囲気を持つものが出現した。いい傾向とは思いますが、受験する側の都合からは面倒でもある。教科書からそのまま引き移したような短い文章に設問がたくさんぶら下がるようなタイプに慣れると対処がなくなる。他学部・他大学の過去問からしっかりと文章を伴う問題を選んで慣れておく必要がある。地図問題は連続して出ているが、昨年が続いては難しくはなかった。過去には河川名を問う出題が連続していた(ニジュール川(2016)・黒竜江(2017))が今年は島がポイントとなった。普段からこまめに地図を参照していれば特別な地図問題対策は不要である。大問IIの「古代ローマの作家」のような文化史関係と時代の前後が絡んだ設問は難問になりやすい。正攻法では対応できない場合もありうる。消去法を活用して正解に近づく技術も必要である。また、絵画・図説の出題は継続されるという前提でできるだけ多くの作品を知る必要がある。作品の一つ一つも作品と作者、そして何々主義(派)という単純な把握から一歩踏み込んで学習しておきたい。そのためには図説類を読み込む必要もある。